

米国ホリスティックナース としての理論と実践

Holistic Nursing

ホリスティックナーシング



Toyoko Yasui

執筆／**安井豊子**

米国ホリスティックナース

Yukari Kawahara

編集協力／**川原由佳里**

日本赤十字看護大学 基礎看護学 准教授

ホリスティックナーシングとは？

「ホリスティックナーシング」とは一般の人々にとって、看護師にとっても、耳慣れない言葉である。ホリスティックナーシングは、ホリズム（Holism）に由来し、「ホリスティック」という言葉は「全体性（Wholeness）」を指すラテン語からきている。つまり、ホリスティックナーシングとは、人を身体、精神、感情、魂の側面をすべて含めたものとして全人的にとらえることが基本となる。

身体（body）、精神（mind）、魂（spirit）は米国ホリスティックナース協会（American

Holistic Nurses Association：以下、AHNA）のロゴにも使われている（図1）。AHNAは、1981（昭和56）年にチャーリー・マクガイアー（Charlie McGuire）氏と8州、33人の看護師や看護教育者によって設立され、ホリスティックナースは、2006（平成18）年に米国看護師協会（American Nurses Association）により一専門分野として認可を受けている。現在4500人以上の会員を擁し、米国のみならず全世界の国々よりなる大きな組織へと発展した。

AHNAの定義によると、ホリスティックナーシングとは「全人的に人をとらえた癒しを目的とするすべての看護行為を指す」¹⁾とあり、近代看護の祖であるナイチンゲール、「ユニタリーヒューマンビーイングの科学（The Science of Unitary Human Beings）」を唱えるマーサ・ロジャーズ（Martha E. Rogers）、「拡張する意識としての健康（Health as



図1 ● AHNAのロゴ



Expanding Consciousness)』で知られるマーガレット・ニューマン (Margaret Newman)、「ヒューマンケアリングの科学 (Human Caring Science)」を提唱するジーン・ワトソン (Jean Watson)、「パワーセオリー (Theory of Power)」のエリザベス・バレット (Elizabeth A. M. Barrett)、「インテグレイティブ看護論 (Integrative Nursing Theory)」のバーバードッシー (Barbara M. Dossey) など多くの看護理論家による看護理論によって支えられている。

ホリスティックナーシングは、痛みという症状を例にして考えると理解しやすい。「痛み」とは、本来、身体的、精神的、魂的、感情的、社会・文化的なものすべてを含めたものをいう。

身体が痛みを訴える場合、身体的な痛みだけではなく感情や心理面が深くかかわる。たとえば、患者の不安感を和らげると疼痛、痛みもまた緩和されることや、逆に不安感が強まると痛みもまた強まることが証明されている。

特に痛みの知覚 (Perception) は、気を紛らわせたり、リラクゼーションやイメージ療法を用いたりすることで変わることが立証済みである^{2, 3)}。近年米国では麻薬による中毒症状や中毒患者が増え、麻薬の処方減らす方向にあるため⁴⁾、ホリスティックナーシングによる痛みのケアはますます不可欠なものになっている。

ホリスティックナーシングのアプローチは、現在の医療・ケアの効果を最大限に引き出し補完・統合ケアを用いて癒しを促すことにある。完治 (Curing) ではなく癒すこと (Healing) を目的とし、施行する (Doing) ケアから共にある (Being) ケアへ目を向ける。また、病気や疾患のケアという視点から、全人格のウェルネスへと視点を変える。

このため、ホリスティックナーシングは、患者や家族が自身のケアや癒しに積極的に取り組めるように計らうため、看護師を含めたケア提供者は、患者を「癒し」ていく過程での道具になるといわれる。さらに、ホリスティックナーシングの最大の特長は、ホリスティックナーシングが看護者自身のセルフケア・自己内観を重視することにある。ケアの担い手である看護師自身が平静で幸せでなければ心のこもったケアはできないのだ。

また、ホリスティックナーシングは患者中心のケアであり、看護師の存在と意識、癒しの環境づくり、関係を支えるコミュニケーション (言語・非言語を含め) が非常に重要となる。癒しの環境づくりは、看護師や職員にも安全で働きやすい場、お互いを尊重し合いチームとして働ける場を築いていくことでもある。ホリスティックナーシングやホリスティックアプローチを伝え、広めていくことは、いじめのない環境づくりにも貢献できると考える。

米国におけるホリスティックナース認定資格試験について

米国ではホリスティックナース認定資格の所持の意義、その評価や利点が多々ある。質の高いケアの提供、健康や医療に対する視点変換 (疾患から健康・ウェルネスへ)、看護水準の高さや責任感の高さなどの証明となる。専門職としてホリスティックナーシングの提供、公での資格保持の提示ができ、医療機関、同僚に専門職として認識される。キャリアアップになり、患者・雇用者からの信頼度も高まる。さらに、看護に対する意識の高い看護師とつながりがもてるようになり、専門看護師として個人として一生をとおして自己を高めていけるのである。